

■矢野玄道 幕末の勤皇の国学者で、維新後の復古思想と神祇官復興に影響を及ぼした。

やのはるみち

シボ 来日・1823＝ 伊予国喜多郡阿蔵村で、大洲藩士矢野道正の長男に生まれる。

シボ 事件・1828＝ 5歳： 下級武士ながら、学問好きで実務にも才能があり、田畑を持って裕福になった上、

鼠小僧磔・・1832＝ 9歳： 天保大飢饉始1833＝10歳： この年、同郷の平田鉄胤の弟らと平田篤胤に入門するほど国学にも熱心だった父の影響を受けて育ち、

大塩平八郎乱1837＝14歳：

勸進帳初演・1840＝17歳： 松山の日下伯厳の塾に入門して、本格的に漢学や書道を学び、
天保改革始・1841＝18歳：

阿部正弘首座1845＝22歳： 京都に上って、順正書院に学ぶとともに、伴信友・八田知紀らと知り合う。
孝明天皇・・1846＝23歳： 初めて、江戸に出、憧れていた平田塾を訪ね、平田鉄胤に会い、
・・・・・1847＝24歳： *正式に入門。同時に、幕府の昌平坂学問所への入学も許され、国学と儒学を並行して学ぶことになるが、父が病気になったため、帰郷、生涯の友八幡神社神官の常盤井厳戈と議論を戦わしながら、地誌の研究にも取り組み、伊予全域から讃岐・阿波にも足を伸ばして、「伊予国式社考」「阿波忌部考」などを著す。

国定忠治磔・1850＝27歳： 尊徳報徳論・1851＝28歳： 再び、京都に上り、鳩居堂熊谷父子の援助を受けながら、子弟教育に当り、
万次郎帰国・1852＝29歳： 六人部是香らと協議し、国学中心の皇学校設立の建言書を、薩摩藩主島津斉彬に提出したが、実現せず、
ペリー来航・1853＝30歳： ペリーが来航し、
開国開港・・1854＝31歳： 日米和親条約が締結されて、鎖国政策が崩れ、
安政大地震・1855＝32歳： 「皇典翼」執筆に着手、

五ヶ国条約・1858＝35歳： 日米修好通商条約が勅許を得ないまま締結され、攘夷論は最高潮に達するも、一線を画して国学研究、
安政の大獄・1859＝36歳： 桜田門外変・1860＝37歳： 大洲藩からの出仕要請を拒否して、弟が一時謹慎処分となるなどしたが、
やがて、全国の神社・神官を支配する白川家と吉田家から依頼されて、学師職に就くが、神祇官復興運動への取り組みが幕府からの疑惑を招き、

薩摩藩士密航1865＝42歳： 突然新撰組に逮捕され、獄中で死を覚悟するも、熊谷父子の嘆願などで釈放され、「神典翼」執筆に着手、

大政奉還・・1867＝44歳： *王政復古の裏で平田派国学者玉松操らとともに、岩倉具視との結びつきを深め、天皇制はじめ、豊国神社・大嘗祭・神祇官など、維新後次々実現することになる構想をまとめ「献芹詹語」を新政府に提出。

明治維新・・1868＝45歳： *平田鉄胤とともに、新政府の神祇局判事となり、内局事務局判事として大学創設の調査も担当、
戊辰戦争終・1869＝46歳： 東京学校調所に出仕。東京遷都に反対して、福羽美静らと激しく対立、
廃藩置県・・1871＝48歳： 突然、逮捕され、謹慎を命じられた直後に、福羽の指揮で東京で大嘗祭が執行され、行事全てが終わると、謹慎を解かれる(平田派国事犯事件)。

学問のすすめ1872＝49歳： 帰郷すると、著述に専念、
明治6年政変 1873＝50歳：
佐賀の乱・・1874＝51歳： 再び、政府に招かれ、修史館御用掛として、全国調査。

西南戦争・・1877＝54歳：

明治14年政変1881＝58歳：
新体詩抄・・1882＝59歳： 皇典講究所の初代文学部長。

この間、「皇典翼」全27巻・「神典翼」全33巻はじめ、生涯に700冊以上の著作を成し、さらに、平田篤胤の代表作ながら未完であった「古史伝」を引き継ぎ、
帝国大学始・1886＝63歳： 第29巻から第37巻まで書き上げるが、
国民之友始・1887＝64歳： 体調を崩して帰郷、まもなく没した。